

おかしな二人組

——映画文学人生論

大江健三郎 (1935-)

『おかしな二人組 スードカップル』(2000-05)

『取り替え子 (チェンジリング) 』(2000) 「講談社」

『憂い顔の童子』(2002) 「講談社」

『さようなら、私の本よ! 』(2005) 「講談社」

おれは向こう側に移行する。しかし、おれはきみとの交信を断つのではない。

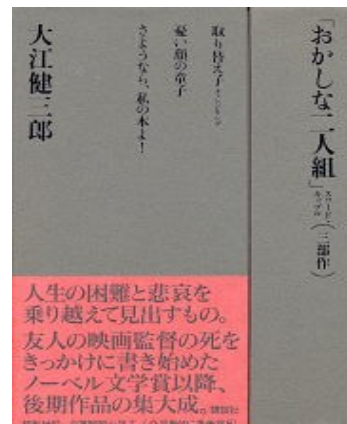
大江健三郎の長編小説『おかしな二人組 (スードカップル)』は、『取り替え子 (チェンジリング)』『憂い顔の童子』及び『さようなら、私の本よ!』の三部作で構成されている。

読者はまず、題名の意味について首をひねらざるをえない。

『おかしな二人組』といえば、芸人なら漫才のコンビ、架空の人物なら弥次さん喜多さんのようなコンビを連想するが、スードカップルは英語で pseud couple (偽のカップル)と説明されると、わからなくなる。偽のカップルとは？

書庫のなかの兵隊ベッドで、ヘッドフォーンに耳を澄ませている古義人に、
..... そういうことだ。おれは向こう側に移行する、といった後、ドシンという大きな音が響いた。しばらく無言の時があつて、しかし、おれはきみとの交信を断つのではない、と吾郎は続けていた。わざわざ田亀のシステムを準備したんだからね。それでも、きみの側の時間では、もう遅い。お休み！

『取り替え子 (チェンジリング)』の冒頭の文章である。偽のカップルは、古義人と吾郎の二人組らしい。やがて、妻の千穂があらわれ、——



おかしな二人組

映画文学人生論

吾郎が自殺しました。あなたを起こさないで出かけるつもりでしたが、マスコミの電話ラッシュにアカリが怯えるといけなから、と、古義人が十七歳の時からの友人の、彼女にとっては兄の身に起ったことを告げた。

自殺者の遺族に対してマスコミの電話ラッシュが予想されるのは有名人だが、古義人は国際的な文学賞を受賞した作家で、吾郎は国際的に名の売れた映画監督——とすると。二人組は大江健三郎と伊丹十三のことかと読者は早合点してしまう。

しかし、古義人にはコギーというもう一人の自分がいる。四国の深い森の村で若いころから友人だった椿繁という建築家にも偽のカップルめいたところがあるという。けつきよく、ほんとうの二人組が誰かは特定できない。

『取り替え子（チェンジリング）』も日本人にはなじみがないが、たとえば、シェイクスピアの『真夏の夜の夢』にも登場する妖精のような子である。『憂い顔の童子』は、セルバンテス作『ドン・キホーテ』の憂い顔の騎士を連想する。そして、『さようなら、私の本よ！』まで読んだ読者がおかしくなったような気がしてくる。

『おかしな二人組』は、しいていえば、多重人格作家による私小説の一種だと思う。

わしは自分が何物であるか、よく存じておる

ドン・キホーテ